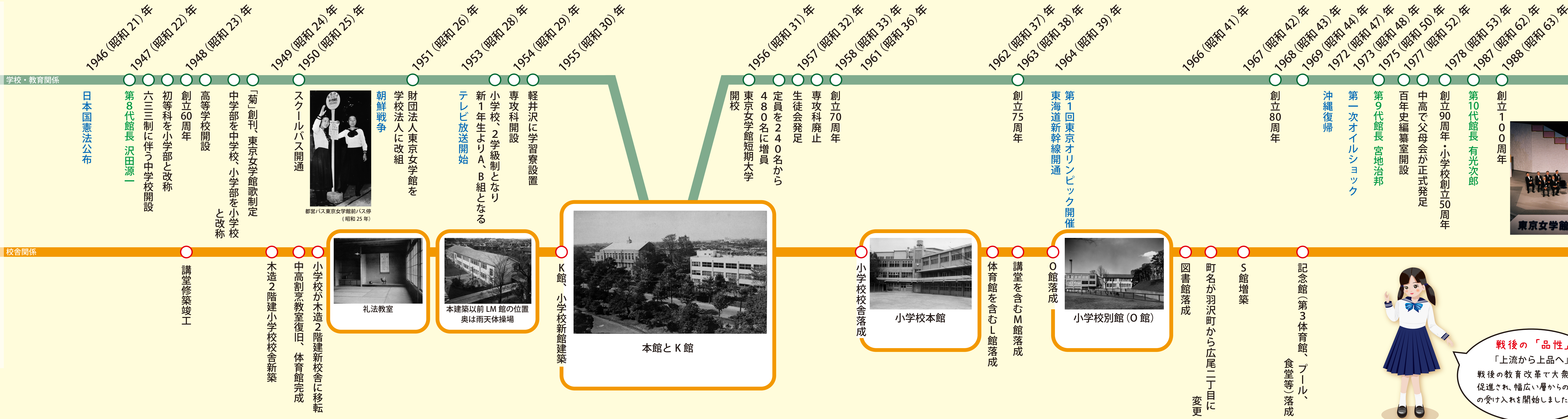


4. 広尾に根ざす・羽沢時代(2) (二代校舎) 1946~1988

戦後社会が大きく変化していく中、第8代館長に就任した沢田源一の下で女学館の戦後改革、新しい取り組みが行われます。六三三制に対応した新しい学制が作られ、生徒心得に「品性を高め、学業に励むこと」が設けられました。その後の教育方針も、伝統を守りつつも新しい情勢に対応していくものでした。

一方、校舎や講堂の修築竣工をはじめ、次々と施設の拡充が図られ、生徒数も大幅に増加していきます。また、父母の会が発足するなど学校と家庭との密接な協力関係の強化も図られました。

青字：一般事項
緑字：歴代館長



戦後の「品性」
「上流から上品へ」
戦後の教育改革で大衆化が促進され、幅広い層からの子女の受け入れを開始しました。